岡山-UM-2010-08-17

UH88/UKIRT日本時間共同利用報告

（プログラム小委員会報告2010）

泉浦秀行
（岡山天体物理観測所）

◇ハワイ、マウナケアの望遠鏡時間

University of Hawaii, 88-inch (2.2m) telescope (UH88)

United Kingdom InfraRed Telescope (UKIRT) (3.8m)

・観測夜を国立天文台のお金で買い、日本人研究者に分配
・当初は観測装置の持ち込み試験が主な用途
・時代とともに目的が変化してきている
・2008年度からハワイ観測所が業務を担当
・2008－2010年度の3年間、天文台が予算を保証
　2500万、2300万、2100万 （その後の保証は何もなし）
・2008年度から研究費による観測時間の買取り開始
　UH: 50万/夜、UKIRT:200万/夜→値下がりした

・Peer review制を取らず、プログラム小委員会が
　評価と時間割り当ての両方を担当してきた

◇2008年、新委員による再スタート

- 2008Bから2011Aまでの審査（但し2011年3月まで）
- 委員：泉浦秀行（委員長）、伊藤洋一、長尾透、
  本原顕太郎、小林尚人（2009A審査から）
- UH88/UKIRT側折衝窓口：　寺田宏
- 世話人：　竹田洋一（ハワイ観測所 ex officio）
- 事務処理：　吉田千枝
- 顧問：　田村元秀、今西昌俊

◇委員会開催

第一回　2008B（Aug-Jan）審査
2008年5月9日＠国立天文台三鷹

第二回　2009A（Feb-Jul)審査
2008年10月15日＠TV会議

第三回　2009B（Aug－Jan）審査
2009年4月14日＠TV会議

第四回　2010A（Feb－Jul）審査
2009年10月20日＠TV会議

第五回　2010B（Aug－Jan）＋2011A（Feb－Mar）審査
2010年4月19日＠TV会議

◇申込と割付の状況

適正2倍

UH88	応募件数	応募夜数	割当夜数	競争率（夜数）
S05B	16	49	19	2.6
S06A	11	34	10	3.4
S06B	13	40	14	2.9
S07A	7	13.5	7	1.9
S07B	6	16	5	3.2
S08A	3	11	7+2	1.6/1.2
S08B	8	24.5	12+6	2.0/1.4
S09A	2	7	5	1.4
S09B	8	23	10+5	2.3/1.5
S10A	*6*	*23*	*10*	*2.3*
S10B	*8*	*26*	*20*	*1.3*

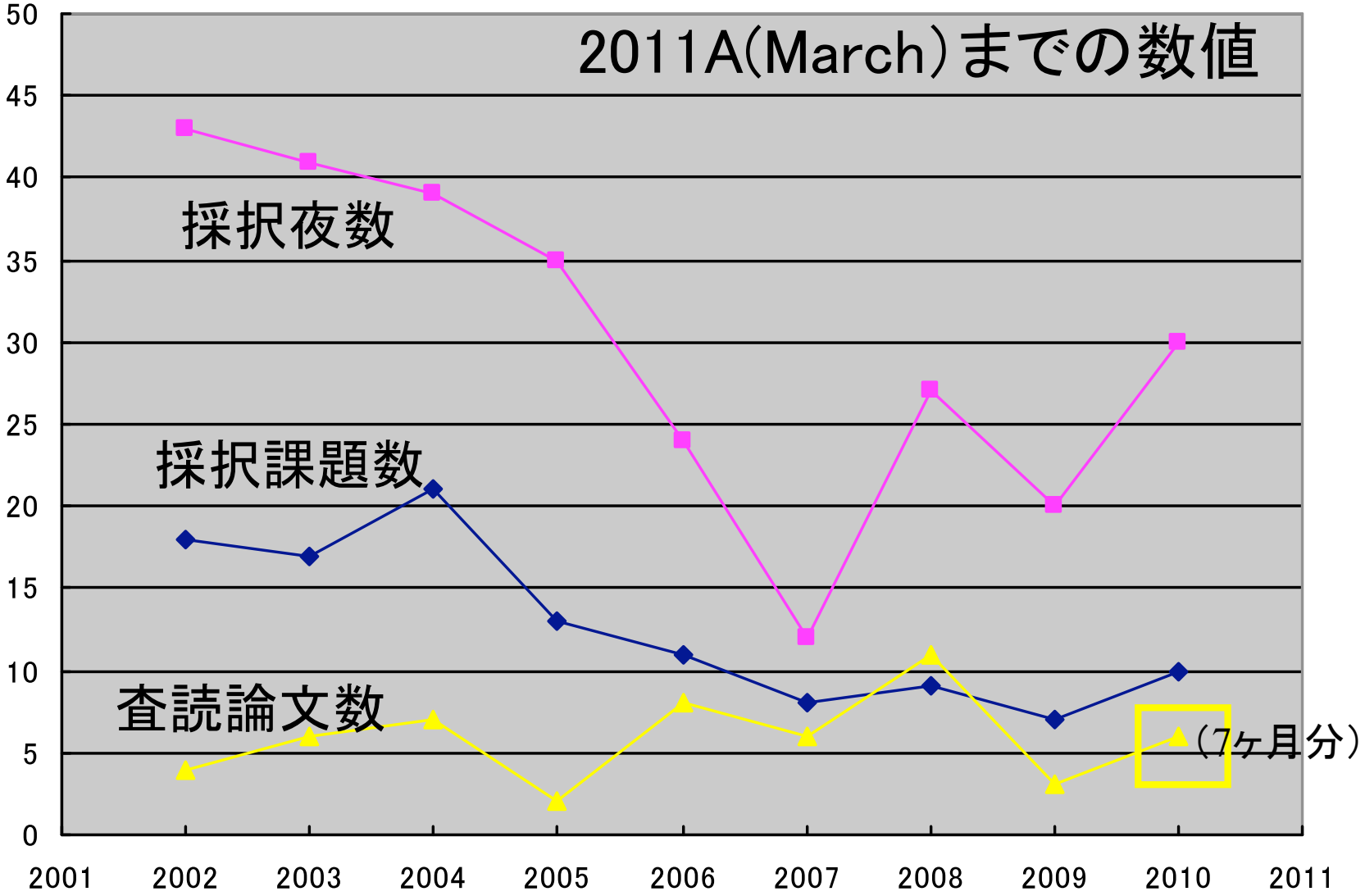
適正3倍

UKIRT	応募件数	応募夜数	割当夜数	競争率（夜数）
S05B	5	11	4	2.8
S06A	9	21	6	3.5
S06B	10	20	5	4.0
S07A	7	16	2.5	6.4
S07B	8	16	3	5.3
S08A	3	10	2	5.0
S08B	10	22.5	6	3.8
S09A	2	6	3	2.0
S09B	3	8	4	2.0
S10A	*5*	*14*	*8.5*	*1.6*
S10B	*2*	*7*	*5*	*1.4*

(赤字は観測者資金による買取分、並びにそれを含めた競争倍率)

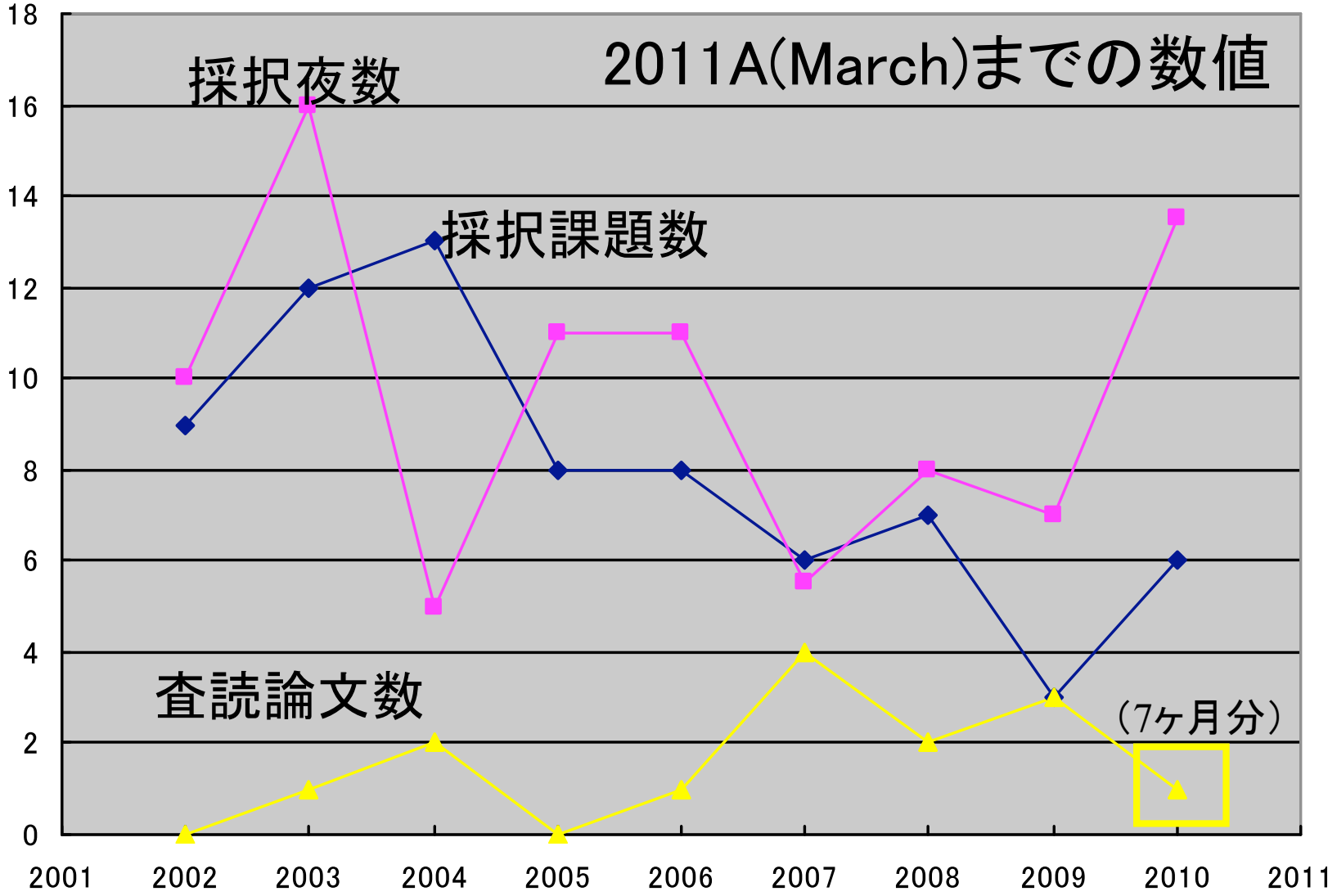
UH88　日本時間観測

◇観測採択状況と成果出版状況 (UH88)



UKIRT　日本時間観測

◇観測採択状況と成果出版状況（UKIRT）



◇お知らせ

2010Aにおいて、日本時間側で観測時間の割り当てを予定した課題のうち、UH時間側で観測時間割り当てを予定した課題と科学目標、使用装置、観測日がいずれも重なるものがありました。なお、日本時間側とは、私たちプログラム小委員会を指し、UH時間側とはUHのTime Allocation Committeeのことを指します。

UH時間側から観測時間割り当て不可の連絡があったので、日本時間側は観測時間割り当ての変更が必要となりました（UHの都合で変更になること自体はこれまでも何度かありました）。

日本時間側の当該課題PIから異議申し立てがあったので、プログラム小委員会として公平性を欠かない範囲で、UH時間側に観測課題のマージ或いは観測時間の分割の可能性を問い合わせました。この問い合わせに関する対応をUH時間側は当該装置PIに委ねました、その結果として、時間割当てについて何も変化は起こりませんでした。

調査の結果、課題審査と観測時間割り当ては近い時期に独立になされていました。この日本時間側とUH時間側で重複の著しい課題に関する調整については、当該装置がPI装置であり、UH時間側の課題が装置PIの指導学生の研究課題であったため、UHディレクターがそちらに観測時間を割り当てると決定していました。その時点で当該装置PIに観測時間に関する決定権が移ったということのようです。

UH88の利用において調整が必要な事項が発生した場合は、最終的にUHディレクターの決定に従うことになります。これまで物事は極めて円滑かつ友好的に進んできています。また、今後も同様と期待されます。そのことで特に何か心配する必要は全く無いのですが、それでもなお、この点をユーザー各位は改めてご承知おきください。

◇2011年以降について

＊UH88はまだあと3年くらい望遠鏡時間を買うことができる

＊UKIRTはもう望遠鏡時間を買うことができない

＊国立天文台に予算配分と事務負担の要望を出すことは可能

＊2011年以降は研究者がどれくらい強く要望するかに依存

＊受益者が団結して自ら行動を起こす必要がある

＊これまでに5人の研究者から、継続を強く希望する旨の
意見が寄せられている。